

令和2年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔算数〕種目〔算数〕

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [算 数] 種目 [算 数]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、児童の思考力・判断力・表現力等を高めるために、めあてを明確にし、数学的に問題を解決する過程に重点をおいた授業づくりに取り組んでいる。また、全小学校の第1学年から第4学年において基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るため、帯時間を設定し反復学習等に取り組んできた。
- 平成30年度全国学力・学習状況調査によると、正答率30%未満の児童の割合は、A問題では9.5%（全国10.3%）、B問題では16.7%（全国19.6%）であり、引き続き学力の底上げを図る取組を継続していく必要がある。また、A・B問題ともに平均正答率はすべての領域において全国平均を上回っているものの、問題解決の過程を式や言葉等で表現し、根拠を明確にして自分の考えを説明することには課題が見られる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫 ② 補足的な学習の取扱い
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	③ 見通しをもって数学的活動を行うための工夫 ④ 日常の事象から見いだした問題を解決する活動の工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑤ 単元や資料等の配列
＜内容の表現・表記＞	⑥ 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫 ⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑧ 問題解決の過程や結果を表現し伝え合う活動の工夫

3 各教科書の特徴

1 基礎・基本の定着

視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 2年から6年では、巻末の「ふりかえりコーナー」に、前学年までの学習内容を、文章や図で示している。
 - ・ 6年…25種類
- 1年②「ひきざん」では、単元の導入として、既習事項である繰り下がりのないひき算を確認できる問題を写真と吹き出しで示している。
- 1年①「なかまづくりとかず」では、ブロックを置く枠を2ページに設けている。

視点② 補充的な学習の取扱い

- 補充問題のページ数
1年無し、2年上8p下4p、3年上7p下7p
4年上9p下9p、5年上12p下7p、6年10p
- 補充問題とは別に「おもしろ問題にチャレンジ」を設定している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 見通しをもって数学的活動を行うための工夫

- 学習の流れの示し方「新しい算数」を使った学習の進め方」で以下の流れを示している。
 - ①今日の問題 ②学習のめあて ③考えと時の手がかり
 - ④大切な見方や考え方 ⑤学習のまとめ ⑥練習問題
- 毎時間のめあてをマークを使って明確に示している。
- 数学的な見方・考え方の示し方
 - ・ 2年から6年の巻頭に「ますりん」というキャラクターとともに示している。
 - ・ 各学年の単元の中で見方・考え方につながる言葉を、1年②ではキャラクターとともに、2年から6年ではマークや下線を付けて示している。
 - ・ 2年から6年の各単元のまとめの文章中の見方・考え方につながる言葉にマークや下線を付けている。
 - ・ 2年から6年の単元末に、「つないでいこう算数の目～大切な見方・考え方」を設定している。

視点④ 日常の事象から見いだした問題を解決する活動の工夫

【日常の事象の取り上げ方】

- 「おおきいかず」（1年②）では、生活科で育てたアサガオやヒマワリの種の数を数えることを導入で扱っている。
- 「長さのたんい」（2年上）では、導入において、鉛筆の長さを比べる場面を設定している。
- 2年から6年では、単元末に「いかしてみよう」を設定し、学習したことを日常生活に当てはめて考えることができるようにしている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元や資料等の配列

- プログラミング的思考を育む活動を5・6年で設定している。
【学習指導要領に例示されている単元等で実施する活動】
 - ・ 「正多角形と円周の長さ」（5年下）では、巻末に「プログラミングを体験しよう！」を掲載し、単元の中にページを示している。
- 【学習指導要領に例示されていない活動】
 - 「倍数を求める手順を考えよう」（5年上）
 - 「数の並べ方を考えよう」（6年）
- 単元数
1年18単元、2年17単元、3年18単元
4年14単元、5年18単元、6年13単元
- 重さ
1年①約150g②約240g、2年上約240g下約230g、3年上約280g下約250g
4年上約280g下約290g、5年上約270g下約260g、6年約470g
※一の位を四捨五入
- ページ数
1年①44p②129p、2年上137p下121p、3年上159p下139p
4年上159p下163p、5年上157p下153p、6年281p
- 仕様
1年①判型A4版、1年①以外判型B5版

4 内容の表現・表記

視点⑥ 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 資料の処理の扱い方
「データの調べ方」(6年)
 - ・ 3つの資料を比べる。
 - ・ 14から17個のドットを書き込む数直線を2か所設けている。
 - ・ ヒストグラムを書き込む欄を2か所設けている。
 - ・ プログラミング体験との接続がある。
- 挿絵、図の扱い
「分数」(2年)
 - ・ 単元導入では、パンやピザを写真で提示し、分け方を示している。
 - ・ 倍と分数の関係について2つのテープ図を比較し、考える学習を2ページ設定している。

視点⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 問題、めあて、まとめを統一した色で示している。
- 単元ごとにページ番号の配色を変えている。
- カラーユニバーサルデザイン、ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 「わり算」(3年)では、言葉の式を1色で示している。

5 言語活動の充実

視点⑧ 問題解決の過程や結果を表現し伝え合う活動の工夫

- 言語活動の流れの示し方
 - ・ 巻頭の「学びのとびら」で以下の流れを示している。
 - ① 問題をつかもう
 - ② 自分の考えを書き表そう
 - ③ 友達と学ぼう
 - ④ 振り返ってまとめよう
 - ・ 「今日の深い学び」と題して伝え合う活動を示している。
- 4年「面積」複合図形の面積
 - (1) 自分の考えをかき表す。
 - (2) 3人の考えを示す。
 - ① 図から式に表す。
 - ② 式から図を使って考えを説明する。
 - ③ 図と式から考えを説明する。(等積変形)
 - (3) 3人の考えで、共通していることを考える。
 - (4) 今日の学習を振り返ってまとめる。
 - (5) 十字型の面積を求める適用問題。

1 基礎・基本の定着

視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 2年から6年では、巻末の「ひと目でわかる〇年のまとめ」に、前学年までの学習内容を、文章や図で示している。
 - ・ 6年…36種類
- 1年「ひきざん」では、単元の導入として、既習事項である繰り下がりのないひき算を確認する問題づくりをイラストと吹き出しで示している。
- 1年「なかよし」では、ブロックを置く枠を1ページに設けている。

視点② 補充的な学習の取扱い

- 補充問題のページ数
1年webページ上にある、2年13p、3年11p、4年13p、5年15p、6年13p

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 見通しをもって数学的活動を行うための工夫

- 学習の流れの示し方「“たのしい算数”の使い方」で以下の流れを示している。
 - ①みんなで取り組む問題や活動 ②学習のめあて ③考えや話し合いの例
 - ④まとめ ⑤ひらめきアイテム ⑥練習問題
- 毎時間のめあてをマークを使って明確に示している。
- 数学的な見方・考え方の示し方
 - ・ 2年から6年の巻末に「ひらめきアイテム集」を設定し、見方・考え方を書き込むようにしている。
 - ・ 各学年の単元の中で見方・考え方につながる言葉を吹き出しで示している。

視点④ 日常の事象から見いだした問題を解決する活動の工夫

【日常の事象の取り上げ方】

- 「大きなかず」（1年）では、おはじきの数を数えることを導入で扱っている。
- 「長さのたんい」（2年上）では、導入において、図書室に置くしおりの長さを比べる場面を設定している。
- 1年から3年では、「おうちで算数」で、家庭の中でできる活動を示している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元や資料等の配列

- プログラミング的思考を育む活動を各学年で設定している。

【学習指導要領に例示されている単元等で実施する活動】

- ・ 「正多角形と円」（5年）では、巻末に「プログラミングにちょうせん！正多角形をかこう」を掲載し、単元の中にページを示している。

【学習指導要領に例示されていない活動】

- 「ゴールをめざそう」（1年）
- 「すごろくゲーム」（2年）
- 「数あてゲームをしよう」（3年）
- 「アルゴリズム」（4年）
- 「グラフをかこう」（6年）
- 単元数
1年19単元、2年17単元、3年18単元
4年15単元、5年18単元、6年13単元
- 重さ
1年約300g、2年約400g、3年約430g
4年約470g、5年約470g、6年約440g
※一の位を四捨五入
- ページ数
1年177p、2年243p、3年263p、4年287p、5年289p、6年269p
- 仕様
判型B5版

4 内容の表現・表記

視点⑥ 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 資料の処理の扱い方
「データの活用」(6年)
 - ・ 2つの資料を比べる。
 - ・ 11から21個のドットを書き込むマス目が付いている数直線を3か所設けている。
 - ・ ヒストグラムを書き込む欄を1か所設けている。
- 挿絵、図の扱い
「分数」(2年)
 - ・ 単元導入では、パンやピザを挿絵で提示し、分け方を示している。
 - ・ 倍と分数の関係についておはじき図を分けて考える問題を設定している。

視点⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 問題、用語指導、まとめを別々の色で示している。
- 単元の右上の配色を領域ごとに変えている。
- カラーユニバーサルデザイン、ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 「わり算」(3年)では、言葉の式を3色で示している。

5 言語活動の充実

視点⑧ 問題解決の過程や結果を表現し伝え合う活動の工夫

- 言語活動の流れの示し方
 - ・ 巻頭の「算数まなびナビ」で以下の流れを示している。
 - ① 問題をつかもう
 - ② 自分で考えよう
 - ③ 学び合おう
 - ④ まとめて使ってみよう
 - ⑤ ふりかえろう
 - ・ 「じっくり深く学び合おう！」と題して伝え合う活動を示している。
- 4年「面積」複合図形の面積
 - (1) 図をノートにはって自分の考えを書き表す。
 - (2) 3人の考えを示す。
 - ① 図から式に表す。
 - ② 式から図を使って考えを説明する。
 - ③ 式だけから考えを説明する。(等積変形)
 - (3) 考えの良いところやにているところについて話し合う。
 - (4) 凹型の面積を求める適用問題。

1 基礎・基本の定着

視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 2年から6年では、巻頭の「〇年生で見つけた考え方」に、前学年までの学習内容を、数学的な見方・考え方を中心に示している。
 - ・ 6年…13種類
- 1年上の巻頭に、おはじきを置く枠を1ページに設けている。

視点② 補充的な学習の取扱い

- 補充問題のページ数
1年上10p下8p、2年上10p下10p、3年上10p下10p
4年上9p下10p、5年上12p下8p、6年18p

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 見通しをもって数学的活動を行うための工夫

- 学習の流れの示し方「自ら進んで学ぶ主体的な学び」で以下の流れを示している。
 - ①?を発見(問題) ②解決したいな、考えたいな、知りたいな、調べたいな(めあて)
 - ③比べたいな、表したいな、話し合いたいな、くふうしたいな、つたえたいな(まとめ)
 - ④たしかめたいな、やってみたいな
- 単元の主要なめあてをマークを使って明確に示している。
- 数学的な見方・考え方の示し方
 - ・ 2年から6年の巻頭の「算数で見つけない考え方モンスター」に、キャラクターとともに9つの考え方を示している。
 - ・ 2年から6年の単元の中で見方・考え方をキャラクターとともに示している。

視点④ 日常の事象から見いだした問題を解決する活動の工夫

【日常の事象の取り上げ方】

- 「20より大きいかずをかぞえよう」(1年下)では、ブロックの数を数えることを導入で扱っている。
- 「長さ(1)」(2年上)では、導入において、巻末の付録を使った「じゃんけんレース」結果の長さを比べる場面を設定している。
- 2年から6年では、学習したことを身の回りから見つけたり、考えたりする「深めよう 生活にかす」「生活の中から見つけたいな」を設定している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元や資料等の配列

- プログラミング的思考を育む活動を各学年で設定している。
 - 【学習指導要領に例示されている単元等で実施する活動】
 - ・ 「正多角形と円」(5年下)では、巻末に「プログラミングのミ」を掲載している。
 - 【学習指導要領に例示されていない活動】
 - 「ロボくんをおもいどおりにうごかしてみよう」(1年下)
 - 「ロボくんに『ハノイのとうのリングのうっし方』を教えよう」(2年下)
 - 「ロボくんに『重さのちがうもののさがし方』を教えよう」(3年下)
 - 「ロボくんに『一筆がき』の方法を教えよう」(4年下)
 - 「ロボくんに『量や数を小さい方から順にならべる方法』を教えよう」(6年)
- 単元数
1年19単元、2年21単元、3年21単元
4年21単元、5年21単元、6年15単元+2単元(別冊)
- 重さ
1年上約240g下約200g、2年上約300g下約300g、3年上約300g下約330g
4年上約340g下約330g、5年上約340g下約370g、6年約480g別冊約110g
※一の位を四捨五入
- ページ数
1年上106p下90p、2年上145p下142p、3年上141p下158p
4年上162p下161p、5年上162p下169p、6年245p別冊48p
- 仕様
判型AB版

4 内容の表現・表記

視点⑥ 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 資料の処理の扱い方
「資料の整理」(6年)
 - ・ 2つの資料を比べる。
 - ・ 20から40個のドットを書き込む直線を2か所設けている。
 - ・ ヒストグラムを書き込む欄を3か所設けている。
- 挿絵、図の扱い
「分数」(2年下)
 - ・ 単元導入では、ケーキを挿絵で提示し、分け方を4コマまんがで示している。
 - ・ 倍と分数の関係についてドット図を分けて考える学習を2ページ設定している。

視点⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 問題、用語指導、まとめを別々の色で示している。
- ユニバーサルデザインを採用している。
- 「わり算」(3年上)では、言葉の式を3色で示している。

5 言語活動の充実

視点⑧ 問題解決の過程や結果を表現し伝え合う活動の工夫

- 言語活動の流れの示し方
巻頭の「3つの学び方で学習を進めよう」にある「友だちとともに学び合う対話的な学び」では、「話し合いたいな」「説明したいな」として例を示している。
- 「かつどう!!」「アクティブ!!」と題して「はんでかんがえたいな」「クラスでかんがえたいな」という伝え合う活動を示している。
- 4年「面積」複合図形の面積
 - (1) 4人の考えの図を示し、説明する。(等積変形含む)
 - (2) いつでも使える考えはどれかを考える。
 - (3) 凹型の面積を求める適用問題。

1 基礎・基本の定着

視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 2年から6年では、巻末の「学びのマップ」に、前学年までの学習内容を、文章や図で示している。
 - ・ 6年…25種類
- 1年「ひきざん」では、単元の導入として、既習事項である繰り下がりのないひき算を確認する問題づくりをイラストと吹き出しで示している。

視点② 補充的な学習の取扱い

- 補充問題のページ数
 - 1年無し、2年上8p下7p、3年上8p下8p
 - 4年上11p下10p、5年19p、6年14p

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 見通しをもって数学的活動を行うための工夫

- 学習の流れの示し方
 - ・ 「学習の進め方」で以下の流れを示している。
 - ①問題をつかむ ②はてな ③自分の考えをもつ ④みんなで話し合う
 - ⑤ふり返る(なるほど) ⑥たしかめ(だったら)
- 数学的な見方・考え方の示し方
 - ・ 2年から6年の巻頭の「学びの手引き」に「算数で使いたい考え方」として、4つの考え方を問題解決場面とともに示している。
 - ・ 各学年の単元の中で見方・考え方につながる言葉を吹き出しで示している。
 - ・ 3年から6年の巻末に、「〇年生までに使ってきた算数のミカタ」として示している。

視点④ 日常の事象から見いだした問題を解決する活動の工夫

【日常の事象の取り上げ方】

- 「大きなかず」(1年)では、生活科で育てたアサガオの種の数数を数えることを導入で扱っている。
- 「長さ」(2年上)では、導入において、1年生にプレゼントするしおりの長さを比べる場面を設定している。
- 2年から6年では、学習したことを身の回りから見つけたり、考えたりする「学んだことを使おう」を設定している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元や資料等の配列

- プログラミング的思考を育む活動を各学年で設定している。
 - 【学習指導要領に例示されている単元等で実施する活動】
 - ・ 「正多角形と円」(5年)では、単元の中に「プログラミングにちょう戦しよう」を掲載している。
- 単元数
 - 1年18単元、2年17単元、3年17単元
 - 4年17単元、5年16単元、6年12単元
- 重さ
 - 1年約310g、2年上約260g下約250g、3年上約260g下約240g
 - 4年上約300g下約280g、5年約500g、6年約450g
 - ※一の位を四捨五入
- ページ数
 - 1年180p、2年上149p下130p、3年上156p下142p
 - 4年上178p下168p、5年308p、6年274p
- 仕様
 - 判型B5版

4 内容の表現・表記

視点⑥ 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 資料の処理の扱い方
 - 「データの見方」(6年)
 - ・ 2つの資料を比べる。
 - ・ 15から23個のドットを書き込む数直線を3か所設けている。
 - ・ ヒストグラムを書き込む欄を3か所設けている。
- 挿絵、図の扱い
 - 「1を分けて」(2年下)
 - ・ 単元導入では、カステラやピザやキャラメルを写真で提示し、分け方を示している。
 - ・ 倍と分数の関係についてチョコレート図を分けて考える学習を1ページ設定している。

視点⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 問題、用語指導を別々の色で示している。
- カラーユニバーサルデザイン、ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 「わり算」(3年上)では、問題やおはじきの色を分けて等分除(ピンク)と包含除(水色)の違いを示している。

5 言語活動の充実

視点⑧ 問題解決の過程や結果を表現し伝え合う活動の工夫

- 言語活動の流れの示し方
 - ・ 巻頭の「学習の進め方」で以下の流れを示している。
 - ① 問題をつかむ
 - ② 自分の考えをもつ
 - ③ みんなで話し合う
 - ④ ふり返る
 - ・ 単元によっては、伝え合う活動を示している。
- 4年「面積」複合図形の面積
 - (1) 4人の考えの図を示す。
 - ① 式から図を使って説明する。
 - ② 図から式に表す。(倍積変形含む)
 - (2) 学習をふり返る。(どんなことがわかったか。どんな考え方がよかったか。)
 - (3) L字型の面積を求める適用問題。

1 基礎・基本の定着

視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 5・6年では、巻末の「〇年生までのまとめ」に、前学年までの学習内容を、文章や図で示している。
 - ・ 6年…13種類
- 1年「ひき算(2)」では、単元の導入として、既習事項を確認できる問題を示している。
- 1年「どきどきがっこう」では、ブロックを置く枠を1ページに設けている。

視点② 補充的な学習の取扱い

- 補充問題のページ数
1年無し、2年上10p下8p、3年上10p下10p
4年上14p下10p、5年24p、6年20p

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 見通しをもって数学的活動を行うための工夫

- 学習の流れの示し方「教科書の使い方」で以下の流れを示している。
 - ①じゅんび・学習の入口 ②いつもの学習・もっと練習
 - ③練習 ④学習の出口
- 毎時間のめあてをマークを使って明確に示している。
- 数学的な見方・考え方の示し方
 - ・ 2年から6年の巻頭の「学しゅうのすすめ方」に「たいせつなこと」として示している。
 - ・ 各学年の単元の中で見方・考え方につながる言葉をマークや吹き出しで示している。

視点④ 日常の事象から見いだした問題を解決する活動の工夫

【日常の事象の取り上げ方】

- 「大きいかず」(1年)では、ぼうの数を数えることを導入で扱っている。
- 「長さ」(2年上)では、導入において、2ひきの動物が釣った魚を絵で示し、魚の長さを比べる場面を設定している。
- 2年から6年では、活用問題で構成された「わくわく算数ひろば」を設定している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元や資料等の配列

- プログラミング的思考を育む活動を5・6年で設定している。
 - 【学習指導要領に例示されている単元等で実施する活動】
 - ・ 「円と正多角形」(5年)では、巻末に「わくわく算数ひろば 算数ラボ」を掲載している。
 - 【学習指導要領に例示されていない活動】
 - 「わくわく算数ひろば 算数ラボ(条件に合う整数)」(6年)
- 単元数
1年23単元、2年17単元、3年20単元
4年16単元、5年18単元、6年13単元
- 1年では、「おなじかずずつ」の単元を設定している。
- 重さ
1年約300g、2年上約260g下約270g、3年上約270g下約250g
4年上約290g下約240g、5年約490g、6年約480g
※一の位を四捨五入
- ページ数
1年176p、2年上148p下143p、3年上157p下139p
4年上171p下142p、5年301p、6年297p
- 仕様
判型B5版

4 内容の表現・表記

視点⑥ 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 資料の処理の扱い方
「資料の調べ方」(6年)
 - ・ 3つの資料を比べる。
 - ・ 21から27個のドットを書き込む数直線を2か所設けている。
 - ・ ヒストグラムを書き込む欄を2か所設けている。
- 挿絵、図の扱い
「分数」(2年下)
 - ・ 単元導入では、ピザやケーキやお好み焼きを写真で提示し、分け方を示している。
 - ・ 倍と分数の関係についてドット図を分けて考える問題を設定している。

視点⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 問題、用語指導、まとめを別々の色で示している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。
- 「わり算」(3年上)の練習問題では、色を分けて等分除(ピンク)と包含除(水色)の違いを示している。

5 言語活動の充実

視点⑧ 問題解決の過程や結果を表現し伝え合う活動の工夫

- 言語活動の流れの示し方
 - ・ 巻頭の「学習の進め方」で以下の流れを示している。
 - ① どんな問題かな
 - ② 自分で考えよう
 - ③ みんなで話し合おう
 - ④ たしかめよう、ふりかえろう
- 4年「面積」複合図形の面積
 - (1) 3人の考えの図を示し説明する。
 - ① 説明の続きを考える。
 - ② 図から考え方を説明する。
 - (2) それぞれの考え方で必要な辺の長さがどこなのか考えさせ、計算で面積を求める。
 - (3) 凹凸型の面積をそれぞれ求める適用問題。

1 基礎・基本の定着

視点① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のための工夫

- 2年から6年では、巻末の「〇年生までに学習したこと」に、前学年までの学習内容を、文章や図で示している。
 - ・ 6年…10種類
- 1年下「ひきざん」では、単元の導入として、既習事項を確認できる問題を示している。
- 1年上「ともだち」では、ブロックを置く枠を1ページに設けている。

視点② 補充的な学習の取扱い

- 補充問題のページ数
1年無し、2年上10p下8p、3年上8p下8p
4年上10p下8p、5年上8p下6p、6年12p
- 補充問題とは別に「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」を設定している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 見通しをもって数学的活動を行うための工夫

- 学習の流れの示し方「教科書の使い方」で以下の流れを示している。
「毎日の学習」
 - ①新しい問題 ②学習のめあて ③考え方のヒント
 - ④学習のまとめ ⑤大切なきまりやことば ⑥練習問題
- 単元の主要なめあてをマークを使って明確に示している。
- 数学的な見方・考え方の示し方
 - ・ 2年から6年の巻末の「算数で使いたいことば・考え方」に4つの考え方を問題解決の場面とともに示している。
 - ・ 各学年の単元の中で見方・考え方につながる言葉を吹き出しで示している。
 - ・ 各学年の「自分でみんなで」では、折り込みページに見方・考え方を示し、どの見方・考え方を使えばよいか選ぶようにしている。

視点④ 日常の事象から見いだした問題を解決する活動の工夫

【日常の事象の取り上げ方】

- 「20より大きいかず」（1年下）では、ブロックの数を数えることを導入で扱っている。
- 「長さの単位」（2年上）では、導入において、ウミガメが歩いた場面を絵で示し、最も長い線を比べる課題を設定している。
- 2年から6年では、学習したことを生活の場面に当てはめて考える「ハロー！算数」を設定している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元や資料等の配列

- プログラミング的思考を育む活動を5年で設定している。
【学習指導要領に例示されている単元等を実施する活動】
 - ・ 「正多角形と円」（5年下）では、単元の中に「プログラミングを体験しよう」を掲載している。
- 単元数
1年20単元、2年17単元、3年17単元
4年16単元、5年17単元、6年13単元
- 1年では、「おなじかずずつわけよう」の単元を設定している。
- 重さ
1年上約190g下約170g、2年上約170g下約230g、3年上約290g下約240g
4年上約290g下約230g、5年上約270g下約290g、6年約470g
※一の位を四捨五入
- ページ数
1年上97p下93p、2年上150p下131p、3年上160p下134p
4年上159p下164p、5年上148p下166p、6年281p
- 仕様
判型B5版

4 内容の表現・表記

視点⑥ 挿絵・写真・図表等の資料の活用の工夫

- 資料の処理の扱い方
「資料の調べ方」(6年)
 - ・ 2つの資料を比べる。
 - ・ 19個のドットを書き込む数直線を1か所設けている。
 - ・ 数直線とともに図を並べて示している。
 - ・ ヒストグラムを書き込む欄を1か所設けている。
- 挿絵、図の扱い
「分数」(2年下)
 - ・ 単元導入では、折り紙を挿絵で提示し、分け方を示している。
 - ・ 同じ数ずつ分ける問題をブロック図を用いて示している。

視点⑦ 配色や文字の大きさ等の工夫

- 問題、用語指導、まとめを別々の色で示している。
- カラーユニバーサルデザインを採用している。
- 「わり算」(3年上)では、言葉の式を3色で色分けして示している。

5 言語活動の充実

視点⑧ 問題解決の過程や結果を表現し伝え合う活動の工夫

- 言語活動の流れの示し方
 - ・ 巻頭の「学び方ガイド」で以下の流れを示している。
 - ① どんな問題かな
 - ② 考えよう
 - ③ 学び合おう
 - ④ ふり返ろう
 - ・ 「自分でみんなで」と題して伝え合う活動を示している。
- 4年「面積」複合図形の面積
 - (1) これまで使った考え方を選び、自分の考えをかき表す。
 - (2) 4人の考えを示す。
 - ① 式と説明を示している。
 - ② 式を見て図を使って説明する。
 - ③ 図や式を見て説明する。
 - ④ 式を見て図をかいて説明する。(倍積変形)
 - (3) 今日の学習でわかったことをまとめる。(どんな形の面積も同じ方法で求められるか。)
 - (4) 式からどのように考えたのか、図を選ぶ適用問題。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「引き続き学力の底上げを図る取組を継続していく必要がある」こと、「問題解決の過程を式や言葉等で表現し、根拠を明確にして自分の考えを説明する」ことに対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和2年度使用小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 1年①「なかまづくりとかず」では、算数ブロックを置く枠を2ページに設けている。また、1年①を判型A4版としており、初めて教科書にふれる1年生児童が、おはじきや算数ブロックを置いたり、書き込みをしやすいしたりしている。
- ・ 各学習のまとめの中に、数学的な見方・考え方をマークや下線を付けて意識ができるようにしている。また、単元末に「つないでいこう算数の目～大切な見方・考え方」というページを設け、学習したことと次に学習することとのつながりを数学的な見方・考え方の視点で示している。
- ・ 4年「面積」複合図形の面積の学習は、始めに自分の考えをもち、図や式から他者の考えを取り入れ、複数の考えの共通点をまとめる構成になっており、問題解決の過程を式や言葉等で表現する力の育成に効果的である。

意見2 日本文教出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 1年上「ともだち」では、算数ブロックを置く枠を1ページに設けている。
- ・ 「自分でみんなで」というページを設け、今まで学習した数学的な見方・考え方のどれを使えばよいか選ぶようにすることで、学習したこととのつながりを示している。
- ・ 4年「面積」複合図形の面積の学習は、始めに自分の考えをもち、図や式から他者の考えを取り入れ、今日の学習でわかったことをまとめる構成になっている。